

かつて日本経済の高度成長時代を支えてきた川崎は、新たな時代を迎え、いま再び、日本経済復活の推進役として活躍しようとしています。

その切り札は「**アジア起業家村構想**」とは・・・

環境、IT、福祉、バイオ、ナノテク、ロボットといった未来の基幹産業を、アジア全体の「頭脳」（起業家）と「経済資本」（成長著しい中国などのアジア投資家）を川崎に集結し、“21世紀型産業発祥の地”に育て上げることによって、市内産業の活性化に貢献しようという計画です。（構想は、「第1ステップ」～「第3ステップ」まで10年間で段階的に整備します。）

<アジア起業家村がめざすもの>

- 起業意欲旺盛な人材の結集！**／日本人だけではなく広く**アジアの人々の優秀な頭脳を集結**させ、欧米をしのぐ研究開発能力と経営力を持った「アジア起業家集団」（コミュニティー）を形成します。
- 成長力のある新産業の結集！**／新産業における製品等の**研究開発は川崎**に結集し、**生産は中国などアジア諸国**で行なうといった、アジアの国々との**国際水平分業体制**を確立させます。

<なぜ川崎なのか。そのポテンシャルの高さを生かす。>

- やがて国際化し、アジアへの窓口となる羽田空港に隣接している。**⇒共同研究や試作品開発、またマーケティング会議などに頻繁に参加する研究者やビジネスマンにとって、交通至便が絶対条件です。
- 首都圏の中心に位置しあらゆる産業育成の条件基盤が揃っている。**⇒中央官庁、基幹産業の本社、大学・研究機関が集中しており情報収集が容易です。また、世界有数の巨大消費者地帯に位置しています。つまり、世界的な大競争時代に企業が勝ち抜くための要素を、川崎は全て持っています。
- アジア地域との協働・連携が可能な地域資産が豊富**⇒川崎には大企業の研究所が集積しており、世界最先端の技術を誇る加工組み立て産業が集積するなど、アジア企業との国際協業を行なう上で多くの地域資産が既に存在しています。また、古くから中国や韓国など多くのアジア地域の外国人が川崎に居住し、市民の国際理解は深いものがあります。

<川崎の受入れ準備と施策>

キーワードは「アジア起業家（日本人も含む）の発掘と育成」です。既に起業家育成のためのNPOをはじめ創業支援ネットの形成は急速に拡大されており、川崎市も独自の起業家支援の施策を講じるなど、着々と産学官民の連携による事業展開の準備は整いつつあります。市全体の取り組みとするために、市民の皆様の御理解と積極的な御参加を期待しています。

（楊上海副市长を案内する阿部市長）（上海の財界首脳との会談）（江沢民氏の母校「上海交通大学」にて）（上海市環境保護局長との会談）



2004年5月に、アジア経済成長のシンボル都市である上海で阿部市長はトップセールスを行い、「アジア起業家村構想」の意義と目的を訴えたところ、上海市の楊副市长をはじめ経済団体首脳や大学の学長など、上海を代表する多くの要人からそのスピーチは注目され、かつ高い評価を得ることができました。同時に、「川崎発！アジア起業家村」による川崎市のアジア全体の経済に果たす役割と指導力に大きな期待が寄せられました。

アジア起業家村構想は、1992年に当時の法政大学「産業情報センター」と日本ヒューマニクス㈱「中国人起業家協会」で開催された起業家養成セミナーに始まり、上海交通大学と日中ベンチャー交流促進センターの合作で開校された「日中ベンチャービジネススクール」をその構想の起源とします。その後、2002年にVEC主催の創業セミナーで当時地域公団副総裁の山口務氏が地域振興策として同構想を発表したところ大きな反響を呼びました。そして、2003年には川崎市が政策として取り上げ、今日に至っています。

◆ **“川崎市の施策や今後の計画”“構想誘致の経緯”など詳しくは下記ホームページを御覧ください。**

（川崎市URL） <http://www.city.kawasaki.jp/28/28asia/home/about/japanese/business-town-jtop.htm>

（日中ベンURL） <http://www.v-news.co.jp/asia/asiamura.html>（NPO） <http://www.asia.or.jp/>

（作成／文責：（協）日中ベンチャー交流促進センター）